

主体的・
対話的で
深い学び

授業実践

英語

主張・反論の繰り返しを通じて、

即興的に英語で

やり取りする力を養う



広島県立三原高校

山本大輔 やまもと・だいすけ

同校に赴任して5年目。1学年主任。
ICT推進部部長。英語科。



学校概要

- ◎設立 1920 (大正9)年 ◎形態 全日制/普通科/共学
- ◎生徒数 1学年約 160人
- ◎2023年度卒業生進路実績 国公立大は、岡山大、広島大、愛媛大、高知大、県立広島大、広島市立大などに71人が合格。私立大は、同志社大、立命館大、関西大、関西学院大などに延べ273人が合格。短大・専門学校進学15人。就職3人。

私が
目指している
授業

生徒に英語を使いこなせるようになってほしくて、授業では教科書の内容を基に、即興で自分の考えを話したり、書いたりする機会をたくさんつくっています。また、私が厳選した、使いやすい決まり文句などを前もって生徒にインプットすることで、生徒が自信を持って英語のアウトプット活動に臨めるようにしています。さらに、相手の意見とは異なる視点で自分の意見を発信することも重視しています。生徒は相手の意見に対して反論することがなかなかできません。そこで生徒には、まずは私の意見をどんどん批判してもらい、徐々に生徒同士で批判し合える雰囲気をつくるよう、努めています。

授業レポート

本時の概要

[対象] 1年生
[教科・科目] 英語・英語コミュニケーションⅠ
[単元] Lesson3 School Uniforms
[単元目標] 学校の制服の是非について、英語で自分の意見を伝える。
[授業時数] 全10時間のうちの10時間目



単元の指導計画は、ウェブサイト『VIEW next ONLINE』でご覧いただけます。<https://view-next.benesse.jp/view/cat/bkn-hs/>または右の2次元コードからアクセスしてください。



ウェブサイトVIEWnext ONLINEでは、授業のダイジェストを動画で紹介!



お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任

1 重要語句をペアで確認 ⌚ 5分間



本時は、「学校の制服」をテーマにした単元の最後の授業。まず、山本先生が作成したポキャブラリーシートを使って、前時までに学習した重要語句を先生に続けて復唱。その後、生徒はペアになって1人が日本語を言い、もう1人が該当する英語を解答するという形で、重要語句の確認を続けた。

2 前時の内容のリテリング ⌚ 10分間



前時の内容のリテリングは原則毎時間行っている。本時も、山本先生が「前時の内容をワークシート上のキーワードを使って説明しなさい。また、制服の是非について自分の意見を述べなさい」と説明すると、生徒はペアになり、60秒で前時の内容と自分の意見を1人ずつ述べる活動を2回ずつ行った。

3 即興的反論・反駁(スピーキング) ⌚ 15分間

本時のキー課題



山本先生の授業で「Quick Rebuttal」と呼ぶ、即興的反論・反駁をまずはスピーキングで行った。ワークシート上にまとめられた「主張」「反論」をする際の英語の決まり文句を見ながら、自分の意見を言えるように1分間で準備。その後、「主張→反論」のスピーキングを、ペアで立場を交替しながら行った。

4 即興的反論・反駁(ライティング) ⌚ 20分間

本時のキー課題



即興的反論・反駁をライティングで実施。制服の是非に対する自分の意見を4分間でプリントに書いたら、ペアでプリントを交換し、4分間で相手の意見への反論を書いた。再度プリントを交換して4分間で反論に対する反駁を書き、その後、本時の活動の振り返りをタブレットで山本先生に提出した。

発問・課題設定の観点

決まり文句を覚え、アウトプット活動を頻繁に行うことを重視



授業で行う「Quick Rebuttal」は、相手の主張に対して即興で反論・反駁を行うものです。まずはスピーキングで行い、その内容を踏まえて、ライティングでも行います。即興での反論・反駁ですから、ディベートのように事前の準備の時間もかかりません。また、ジャッジ役も不要

図1 主張・反論のための表現

◎主張に使える表現	
	★おすすめ表現 (山本も使ってる！)
Opinion (意見)	I am for/against this topic. I agree/disagree with this topic.
Reason (理由)	This is because ~. One reason is that ~.
Example (具体例)	For example, ~. One example is that ~.
Opinion (意見)	In conclusion, ~. That's why ~. Therefore, ~.

◎反論・反駁に使える表現	
	★おすすめ表現 (山本も使ってる！)
Assertion (感謝&主張)	Thank you for your idea. I am afraid I do not agree with you.
Rebuttal (反駁)	You said "○○○" but I think that ~. In my opinion, ~ (私の意見では) As far as I know, ~ (私の知っている限りでは) According to a survey, ~ (ある調査によると) +具体的な説明 (ここがないと浅い反駁に！)
Conclusion (結論)	In conclusion, ~. That's why ~. Therefore, ~.

※学校資料をそのまま掲載。

本単元でメインの活動に位置づけたのは「Quick Rebuttal」でした。単元を通じて学び、本時の前半でも確認した語句は、主張・反論の際にも使える表現として生徒は習得しています。生徒は「Quick Rebuttal」のルーブリックを通じて、「意見と理由を2文以上で伝える」など、私が求める基準に到達することを意識して活動に取り組んでいます。

学習評価の工夫

授業中の活動を定期考査の出題内容につなげ、生徒に自信を持たせる



総括的評価は、主に動画で提出させるパフォーマンス課題や定期考査で行っています。定期考査では、授業で行ったアウトプット活動に関連した内容、例えば本時の単元であれば、「三原高校は制服を廃止すべきか、あなたの意見を書きなさい」といった問題を出すようにしています。1・2

年次は、英語を使うことに自信を持たせることが大切だと考えていますので、定期考査も、授業で取り組んだ成果がきちんと結果となって反映される問題を出すようにしています。

また、授業の最後には、タブレットを使って振り返りを行い、その日の授業で学んだことや私に対する質問、意見などを書かせています(図2)。その振り返りは総括的

図2 生徒とのコミュニケーションも兼ねた授業の振り返りの項目

- 今日の授業の全体的な理解度 (よく理解できた・まあ理解できた・あまり理解できなかった・少し難しかったの4つから選択)
- 今日の授業で印象に残ったこと (学習内容や教材の内容など)
- 今日の授業内での英語を使ったアウトプット活動の振り返り (ペアトーク、リテリング、Quick Rebuttal など)
- 最後にひと言どうぞ! (独り言や山本への質問など、何でもOK!)

※学校資料を基に編集部で作成。

評価の材料ではなく、私にとっては授業改善のヒントであり、生徒にとっては次に取り組むべきことを明確にする学習改善の材料としています。授業の多くの時間を生徒同士のアウトプット活動に充てることで、私が生徒とやり取りする機会は減る分、振り返りを通じた生徒とのコミュニケーションはとても重要なことだと感じています。



生成 AI を活用した英作文の添削

山本先生は、生成AIに英作文を添削させるための指示文を作成し、生徒に生成AIによる添削を経験させている。「生徒が使える英語のレベルを適切に設定し、『学習者を励ますように』といったプロンプト(*)を加えることで、生成AIは生徒にとって信頼できる添削者、そしてコミュニケーションの相手になると考えています」(山本先生)

■英作文の添削で使った生成AIへのプロンプト

ROLE

You are an English instructor dedicated to CEFR's B2-level learners. Your English is always within the B2 level.

You are also an experienced coach who understands the difficulties foreign language learners face and encourages them to continue learning.

GOAL

Your goal is to help students become better writers of English.

TASKS

Execute the following tasks step by step.

Step 1: Read the student's text delimited by three dashes thoroughly and restate the passage as they are, marking the parts that include errors in bold so that the student can easily recognize them.

Step 2: Carry out the correction for word usage, spelling, grammar, and punctuation only.

Step 3: Create a table to show the corrections and reasons why they need to be corrected. The first column needs to be the prior version in English, the second column is to show the revised version in English, and the third column is to explain in Japanese why you correct them in terms of grammar and word usage.

Step 4: Write a short feedback message just in Japanese for the student to be a better writer of academic English by showing his or her strengths. In addition, make a question about the student's text in terms of its contents. In the feedback message, focus on what the student achieved and show the next necessary small step that is achievable for the student.

I went to the library to do my homework and I met my seniors. They study very hard so I thought I should study like them.

A 生成AIに対する山本先生の指示部分

B 生徒の英作文

■生成AIによる生徒へのフィードバック

Step 1: Restated Text (with errors marked in bold)

I went to the library to do my homework and I met my seniors. They **study** very hard so I thought I should study like them.

Step 2: Corrected Text

I went to the library to do my homework and I met my seniors. They **studied** very hard, so I thought I should study like them.

Step 3: Table of Corrections

Prior Version	Revised Version
They study very hard	They studied very hard
so I thought I should study like them	, so I thought I should study like them

Step 4: Feedback in Japanese

とてもよく書けています！ ストーリーも分かりやすく、自分の気持ちがよく表現されていますね。特に、「先輩たちに影響を受けて自分も頑張ろうと思った」という流れがとても自然です。次のステップは、時制に注意して書くことです。進行中の動作には過去進行形を使うことで、より正確に状況を伝えられます。先輩たちはどんな科目を勉強していましたか？ それも書き加えると、もっと具体的な文章になりますよ！

■生徒の声

文法のミスに気づくことができたし、生成AIの使い方も分かった。

生成AIは使い方によっては学習時間の短縮にもつながり、便利な機能だと思った。

生成AIは本当にすごいと思う。これから時間があれば少しずつ使ってみたい。

お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任

* 大修館書店『英語教育』2024年6月増刊号 第1部「生成AIを活用した自由英作文の自動添削と見えてきた課題」(高木俊輔氏)を参考に山本先生が作成。

成果と展望

生徒が実際に
必要性を感じた表現も、
身につけさせたい



「Quick Rebuttal」を繰り返すうちに、生徒は意見を述べることを恐れなくなり、主張と反論がかみ合ったやり取りが行えるようになりました。同様の活動に取り組んだ卒業生は、ベネッセが提供するスコア型英語4技能検定「GTEC」の1年次からの1年間のスコアの伸びが全国平均を大きく上回り、2年次にはライティング、スピーキングともに大半の生徒が、意見や理由を「十分に伝えられる」と評価されました。

これまでは生徒に「主張→反論」のための必要最低限の決まり文句を伝えてきましたが、今後はより多様な表現方法を教えていきたいと思っています。授業後のアンケートで「言いたかったけれど、言えなかった表現」などについて聞き、次の授業で紹介することも考えています。

* コンピューターの操作時に入力や処理を促すメッセージや記号のことで、生成AIの利用においてはユーザーが入力する指示や質問のことを指す。